

インフレ懸念がくすぶる米国景気

ポイント① 景況感は改善も「供給面」に課題

米国では、4月の消費者物価指数の上振れをきっかけに、インフレやFRB（米連邦準備制度理事会）の量的緩和縮小への警戒感がくすぶっています。

5月の米ISM（サプライマネジメント協会）景況感指数は、製造/非製造ともに市場予想を上回り、非製造業は1997年の調査開始以来で最高水準を記録しました。消費者のペントアップデマンド（繰越需要）が新規受注を後押しし、両指数の上昇をけん引した模様です。一方で、原材料や労働者不足などを背景に、入荷遅延や仕入価格が高水準で推移する状況が続いており、「供給力」の確保が今後の景況感を左右するポイントになりそうです。

ポイント② 消費者の楽観度合いが微減

5月のコンファレンスボード消費者信頼感指数は、前月より0.3ポイント低下し、インフレ懸念や政府による財政支援の減少が、消費者の将来の仕事や所得見通しに対する楽観度合いをやや弱めたようです。

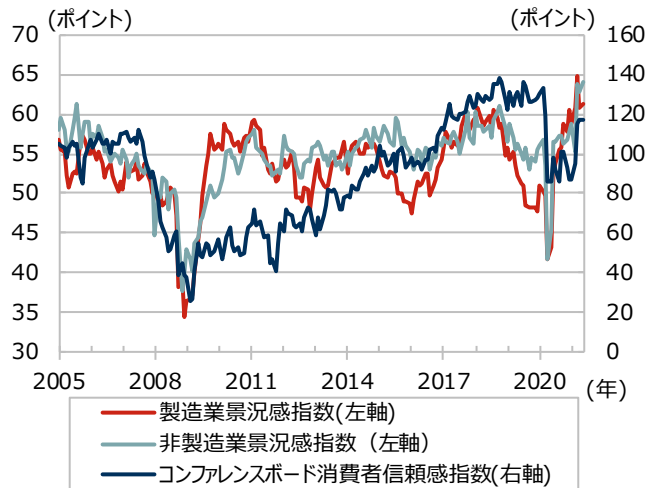
ポイント③ 雇用は伸び悩むも失業率は回復

5月の米雇用統計によれば、非農業部門の就業者数は前月比55.9万人増加し、市場予想をやや下回りました。失業者の総数が、感染拡大前よりも300万人以上多い状態が続いており、国の失業保険によって、働かなくても多くの収入を得られることが、就業者数が増えない要因とみえています。一方で、失業率は前月より0.3ポイント低下しており、働きたい人が仕事を見つけやすい環境になってきたようです。

景況感が上振れ、かつての日常が垣間見える米国ですが、材料価格や労働力などの供給面の制約から、インフレ懸念はしばらく続きそうです。今月10日に発表予定の消費者物価指数が注目されます。

図1：米ISM景況感指数と消費者信頼感指数

期間：2005年1月～2021年5月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：米国の失業率と非農業部門就業者数

期間：2020年5月～2021年5月、月次

	失業率 (%)	労働参加率 (%)	非農業部門就業者数 (万人)	
			総数	前月比増減
2020年				
5月	13.3	60.8	13,299	283.3
6月	11.1	61.4	13,784	484.6
7月	10.2	61.5	13,957	172.6
8月	8.4	61.7	14,115	158.3
9月	7.8	61.4	14,187	71.6
10月	6.9	61.6	14,255	68.0
11月	6.7	61.5	14,281	26.4
12月	6.7	61.5	14,250	-30.6
2021年				
1月	6.3	61.4	14,274	23.3
2月	6.2	61.4	14,327	53.6
3月	6.0	61.5	14,406	78.5
4月	6.1	61.7	14,434	27.8
5月	5.8	61.6	14,489	55.9

(注) 労働参加率 = 労働力人口 / 生産年齢人口

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要イベント

6月10日	米消費者物価指数 (5月)
6月15日	米小売売上高・米鉱工業生産指数 (5月)
6月16日	米金融政策発表

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。